

Execution (プロジェクトの実施)

本校の生徒に最も必要な力は、上記のように「自立した人間」として生きていく力である。これは、2009年から2011年にかけて実施した保護者・生徒・教職員のアンケート結果、及び学校生活の観察結果からの分析によるものである。自立した人間としての成長を促すには、小学校との連携が必要である。9年間の一貫した指導方針と、段階的な指導事項の共通理解を図り、日々の教育活動を行うのである。

今回ユネスコスクールとしての登録を行うにあたり、まず、中学校における計画を以下のように立て、次に小学校教職員との協議を進め、小学校の教育活動とのつながりを確立していく。

下記の計画表は、ESDを進めるためのものである。これは、自立した人間として生徒が成長していくのを推進するプログラムである。生徒が「自分自身」と「社会の現実」を見つめなおす機会を確保し、将来の自分と社会のあるべき姿、すなわち「夢」を思い描けるようにする。

また、「夢」を実現するために生じる諸問題を自ら見つけ、適切に解決しようとする態度の育成を図る。同時に、問題の合理的解決のための適切な「判断力と行動力」の育成を図る。

	1年	2年	3年
4月		「職場体験学習」に向けての準備 & 「名古屋分散学習」に向けての準備	「修学旅行」に向けての準備
5月	「福祉関連行事」に向けての準備		▽■修学旅行
6月	●農業体験活動 ▽福祉実践教室	●農業体験活動 ■▽●職場体験学習	●農業体験活動 ▽●防災学習
7月	▽福祉体験学習	■●ドリームマップ作成	
8月	○■▽戦争体験を聴く会		
9月	○●保・小・中・地域合同避難訓練		
10月		「名古屋分散学習」に向けての準備	
11月	■●ドリームマップ作成	■▽●名古屋分散学習	
12月		「修学旅行」に向けての準備	
1月	■●ストーリーテリングの会		
2月		「修学旅行」に向けての準備	
3月	「職場体験学習」に向けての準備		

■…自分自身を見つめる ○…歴史から学ぶ ▽…社会に目を開く ●…自分の「人生」「生き方」を考える

(1) キャリア教育

① 命を育む活動・勤労の重要性を学ぶ活動…農業体験学習（全学年）

生徒は命を育む体験に乏しく、命を育む難しさや命の大切さを実感することが少ない。また、勤労体験が乏しく、働くことの大切さを実感することも少ない。

そこで、本校では農業体験学習を毎年計画している。全ての農作業を継続的に行い、収穫物を介して、小学生や地域の人々とのふれあいを深める活動を行うのである。

これによって、共同作業の達成感と、収穫までの困難さや収穫の喜びを味わわせたり、働くことの意義を確認させたりして、生徒の勤労意欲を高めたい。また、命を育む難しさや命の大切さを実感させ、命を尊ぶ態度を育てたい。



共同作業を通して働く意味を考える

② 福祉教育に関する活動…福祉実践教室・福祉体験学習（1年）

福祉の充実、今後の日本にとって重要課題である。近い将来に福祉の問題に直面する生徒たちは、福祉に関する知識を広げ、福祉に対する理解を深めながら問題意識を高め、中学生として現在なすべきことと将来の自分の生き方を考える機会をもたねばならない。

そこで、本校では福祉実践教室と福祉体験学習を毎年計画している。「福祉サービスの需要」「福祉事業の実態」等々を体験から考えさせ、社会問題に目を開かせたい。



高齢者と接して己の生き方を考える

これによって、世の中では実際に何が問題となっており、どのような対策が取られているのかを自ら調べたり、担当の専門家に聴いたりして、見識を深めようとする意欲を高める。そして、自分には何ができるのか考え、どう実行すべきかを追究する態度を育てたい。

③ 職場見学・職場体験に関する活動…職場体験学習・ドリームマップ作成・名古屋分散学習、修学旅行職場見学

問題が山積する現代社会を、自分らしく生きていくのは難しい。したがって、中学生のうちから将来の目標を持ち、自分の生き方を実現するためのイメージを描いていくことは、非常に重要である。

そこで、進学や就職を現実的に考え始める中学校に入学した機会に、ドリームマップを作成する活動を計画に取り入れる。これによって、自分自身を見つめ、将来の生き方を考える意欲を高める。

これによって、在学中に計画されている職場体験学習・名古屋分散学習・修学旅行の職場見学などの活動を通し、自らドリームマップを修正しながら充実させていき、自分にとって必要な行動を考え、実行しようとする態度を育てたい。



己の生き方を一人一人見つめる

④ ストーリーテリングの会（全学年）

普段の日常生活や学校の通常の授業では、生きる喜びや生きる知恵に心を動かされることが少ない。しかし、話の力と語り手の力によって、生徒の心に深い感動を与えることができる。

そこで、本校ではストーリーテリングの会を毎年計画している。この会では、保育園の時から継続して関わってくださっている約10人のボランティアの語り手の方々が、各学級で生徒の年齢や集団の性格に合わせた数話の素話を行う。語り手の感動的な語りは、伝統的な日本や海外のお話や詩に表現されている「たくましく生きる姿」や「生きる知恵」を生徒の心に刻み込む。そして、生徒は己の生き方を見つめ直すのである。

これによって、生徒たちが将来、大きな問題を抱えたり、生活上の難問に突き当たったりしたときにも、決してくじけることなく、明るく、力強く生き抜こうとする態度を育てたい。



問題に立ち向かう登場人物に学ぶ

（2）防災教育

① 防災教育に関する活動…保育園・小学校・中学校・地域の合同避難訓練（全学年）

本校は、近い将来起こる巨大地震の発生時に、保育園児と小学生と地域住民の避難所となるため、地震災害への対応は、緊急かつ継続すべき重大な課題である。また、中学生も数年後には成人するので、地域の防災に携わる人材、被災時や復興時に役立つ人材として育てていく必要がある。

そこで本校では、保育園と小学校と中学校による合同避難訓練を2013年度に実施した。2014年度からは地域とも協力して1,000人規模の校区・保小中合同防災訓練を実施している。そこでは、地域住民や小学生のために、最高学年の3年生が体験ブースの運営や指導、2年生が地域住民の誘導、また、1年生が保育園児の避難行動が円滑かつ安全に行われるように、保育園児と手をつないだり、声をかけたりして、避難行動を支援できるようにした。



3年生が体験ブースの指導員として、校区防災リーダーとともに活動する

これによって、弱い立場にある者に対する思いやりの心を育てたい。また、被災時に対応

できる力を身につけるとともに、地域における中学生の役割や、期待されている働きを自覚させたい。さらに、被災直後や地域の復興などに、中学生としてどう関わるかを進んで考えようとする意欲を育てたいと考えている。

② 防災学習（3年）

今、この地域では、巨大津波への対応の具体策が再検討されている。本校も津波避難ビルに指定されているため、生徒の関心は高い。しかし、具体的に何をどうすればよいかについては、まだ曖昧である。

そこで、本校では2013年度より地域の防災リーダーなど、実体験のある方々を講師として招き、防災学習を行っている。まず、避難のときに必要なものや、救助のための器具の実物を見たり、被災現場の写真や映像を見たり



合同防災訓練の事前学習としてけがの救急処置の訓練を行う

りして、防災に対する意識をよりいっそう高める。そして、けが人をどう運ぶか、救急処置はどのようにするか等の実地訓練や調べ学習を行っている。

これによって、生徒も教師も実際に取るべき行動の概略を心得て、被災後の行動の心構えをつくる。そして、校区・保小中防災訓練時のリーダーとしてだけでなく、今後備えるべき物品や、行うべき訓練の計画を具体的に立てて実行していこうとするなど、巨大地震に備えようとする態度を育てたい。

（3）平和教育

① 平和教育に関する活動…戦争体験を聴く会（1年）

生徒は日常生活のなかで、戦争がもたらす甚大な損害について、統計資料や書物による以外、知るすべがない。また、家族も教職員も生々しい実体験がないため、心から平和を望む訴えにも説得力を欠く。

そこで、本校では、空襲体験、戦闘体験、本土への引き上げ体験等々、さまざまな戦争体験者が、直接生徒に語りかけることができる間に、話を聴いたり、質問をしたり、記録したりする会を2013年度より実施している。



戦争の恐ろしい話に聞き入る



無差別の空襲体験を語る

これによって、小学校6年生の社会科で学習した戦争に関する基本的な知識を土台として、「戦争と平和」に対する関心をより高め、青少年赤十字の一員として、戦争に対する疑問、世界の紛争地、窮状に陥っている難民などの国際問題を調べたり、考えたりする態度を育てたい。

豊橋市立前芝中学校

校長 谷中 緑